



2009年9月2日放送

## 印象に残る症例②

帝京大学 血管外科 准教授 新見 正則

私が思っている漢方の魅力は5つあります。1つ目は、漢方は西洋医学的病名がなくても処方できる。2つ目が、漢方薬の副作用はほとんどない。3つ目が、漢方は薬剤費用が安く、健康保険で処方可能である。4つ目が、うまく使えば本当によく効く。そして5つ目が、他の訴え、症状、病気も治る。この5つです。

最初の西洋医学的病名が不要ということは、とても外来をするうえではありがたいです。僕は漢方と出会ってから、「何か困ったことがありますか」と聞けるようになりました。それまでは、いつもたくさんのお患者さんを、ある意味こなすために、自分が出来るイエス、ノーの質問だけを投げかけていたんですね。本当に本当につまんない外来で、お患者さんの訴えは、まあ無視して、そして自分の診療科の治せるものだけを治していました。

今、振り返って思うと、西洋医学は僕にとって直球なんですね。大学を卒業し医者になり、ひたすら自分の、野球で言う直球が速くなるように修練を積みました。一所懸命、速い先輩を見習って、速くなるようになりました。ところが、けっこうな年になって、人からも人並みの外科医と思われるようになった年齢になっても、実はその直球だけでは通用しない相手がいます。これは、臨床を一生懸命すればするほど、そういう先生ほど分かっているんですね。三振を取れずに、打たれる相手がやっぱりいるんです。そういう時に、

そういう患者さんに、漢方薬という変化球を身につけて、僕はなんとか、そういう患者さんもしっかり治せるという実感を持って、楽しく外来をやっています。

よく、漢方薬の話をする、患者さんにも同僚にも先輩にも、漢方薬は怪しいって話をされます。「だって、成分が分かってないんだろ、何が効くんだ」。でもそういう時に僕は切り返します。「皆さん、ミネラルウォーター好きですか。天然塩は好きですか」。皆さんおいしいと言いますね。実験室の H<sub>2</sub>O、純粋の水がどんなにまずいか、実験室の NaCl がどんなにまずいかは、なめたこと、飲んだことがある人は知っています。そういう食べ物では、別においしければいいだろうと、みんな思っているんですね。そして、そういう薬に何が効くんだという、うるさいこと聞く患者さんや先生方も、実はミネラルウォーターや天然塩はおいしいと思って飲んでます。私にとって漢方薬は、ミネラルウォーターや天然塩なんです。そして、漢方薬のどの成分が効いているかという質問が、実は、漢方薬の真の魅力からは離れていくということを、ちょっと説明したいと思います。

柴苓湯という薬があります。小柴胡湯の柴と、五苓散の苓です。小柴胡湯は7つの生薬、柴胡、黄芩、半夏、大棗、人参、甘草、生姜です。五苓散は5つ生薬、沢瀉、蒼朮、猪苓、茯苓、桂皮から成っています。私はネズミの心臓移植の実験をたくさんしてきていて、このネズミの心臓移植の拒絶抑制に柴苓湯が効くということを見つけました。人間で使っているよりも相当多い量ですから、まあ人間に使えるとは限りません。ただ、その量で本当によく効くんですね。じゃあ、五苓散と小柴胡湯のどっちに、その免疫抑制の効果があるのかということで、それぞれ調べました。ところが、小柴胡湯も五苓散も効かないんです。

そうすると、柴苓湯、12の生薬、全部が必要ということは何となく思いました。それを証明するために、柴苓湯の12種類の生薬から1種類を抜いた生薬、つまり一味抜きと言います。柴胡一味抜き、黄芩一味抜き、半夏一味抜き、などなどなどが計12種類できるはずですね。その12種類の一味抜きの柴苓湯、それは驚くことに、どれも柴苓湯と同じ免疫抑制効果はありませんでした。つまり、12個の生薬すべてのバランスが大切なんですね。そして、次にやったことは、柴苓湯12種類の中の1つの生薬、その生薬の比率だけを、濃度を10倍にしました。ある1つの濃度が10倍、それ以外は普通の柴苓湯の濃度になっています。そういう薬を、それも12種類あるはずですね。それをネズミに投与しても、残念ながら免疫抑制作用はないんです。ですから、この長い長い人体実験を通じて得られた柴苓湯というのは、巧妙な足し算と、かつ微妙なバランスでできています。これが僕にとっては非常に面白い結果でした。

つまり、漢方薬というのは、あえて足し算をしているんです。あえて足し算をしているから、私が5番目に漢方の魅力としてお話をした、他の訴えや症状や病気も治ります。つまり、1つのものを治しているのではないんですね。たくさん生薬を組み合わせ、いろんなものが治る。そして、あるものを治すにも全部が必要だということが分かってきました。

た。

例えば、46歳の男性。まあ肥満です。176センチ、84キロ、ウエスト93センチです。重役タイプで、で、内痔核もあります。こういう方に大柴胡湯と桂枝茯苓丸を与えました。まあ、経過はぼつぼつです。2年間で体重は70キロ減り、ウエストは78センチになりました。この方は、大柴胡湯と桂枝茯苓丸を飲む前は血圧が140-150、それが120に下がり、肩こりもなくなりました。そして痔もなくなり、お通じが毎日出るようになった。そのうえよく眠れる。仕事でもイライラしない。で、きわめつけは花粉症もなくなってしまったんですね。ですから、この大柴胡湯と桂枝茯苓丸という薬がこの患者さんの、ほとんど多くの訴えを治してしまったということです。本当に漢方薬は、ある1つの病気や病態を治すんではありません。いろんなものを治しています。

そこで1つ追加ですけれども、大柴胡湯は肥満を治すことがあります。でも、肥満を治すときに、何も努力をしていない人の肥満は治りません。「先生、いくらでも食べたいんだ。でも、痩せさせてくれ」。そんなのは無理です。僕が指導している肥満の対処法は、「食事は3分の1減らしなさい、間食や甘いジュース、特に冷たいジュースは止めなさい」、そう言っています。で、適度の運動をしなさい。それで十分です。そしてアルコールを減らして、しっかりそういう状態で漢方薬を飲むと、本当にうれしいように痩せる人が多いです。

次の例は、36歳女性、中肉中背です。この方の主訴は便秘です。で、この方に桂枝加芍薬大黃湯という薬を出しました。そうしましたら、もう次の外来で2週間後に「やあ先生、20年ぶりの快便だ」と言っているんですね。16歳から、思春期の頃から、この方はずーっと便秘があったそうです。もちろん西洋薬の便秘剤、いくらでも飲んでいるんです。でも今までひとつも楽にならない。この方が、この桂枝加芍薬大黃湯をしばらく飲んで、どうなったかという、「本当に食事が気持ちよく食べれる、気持ちいい食欲がある。皮膚がつやつやしてきた。そしてつらい仕事をしてても疲れな。よく眠れる」。こんなことを言うんですね。たかが便秘です。本人がびっくりしていました。「たかが便秘と思って先生ここに來たんだ。そうしたらもう、色んな症状が良くなって、それこそニキビもほとんどなくなってしまった。本当に人生が違ったようだ」と言いました。「こんなに効くんだったら、なんでもっと早く漢方薬を飲まなかったんだろう」と言ってくれたんですね。この方は本当に元気になって、そして桂枝加芍薬大黃湯をたくさん持って、青年海外協力隊に行きました。今は楽しく海外で働いていると思います。

どの漢方薬でも長く飲んでると、それは有効です。一番分かりやすいものは、ぜひ風邪をひく頻度と、風邪をかかっても、どうなったかを聞いてください。多くの方は分かっていないんですね。でも患者さんに聞くと、「いやー先生、確かに風邪にひきにくくなった。風邪をひいても楽だ。家族の中で私が一番元気だ」。そんな話をしてくれます。

漢方薬の、他の症状にも治る、他の病気も治る、そういうことを実感するには、ぜひ色々な訴えに漢方薬を処方してもらって、そして患者さんから「何が良くなった？」と、ぜひオープンに聞いてください。そして、患者さんがそれでもよく分かんない場合には、「風邪なんかどうですか？」と聞くだけで、患者さんは答えを言いますし、肩こり、睡眠、食欲、そんなものを聞いてあげると、「いやー先生、確かに漢方を飲んで良くなっています」という嬉しい答えをしてくれると思います。